

# 筑波大学ハンドボールフェスタに参加した高校生の満足感を構成する要因

安倍 健太郎 (200811874、ハンドボール方法論)

指導教員：會田宏、河村レイ子

キーワード：満足感、目標達成度

## 【目的】

筑波大学ハンドボール部では、全国の高校生を集めて指導講習会（以下ハンドボールフェスタ）を行っている。本研究では、ハンドボールフェスタ改善に役立つ基礎資料を得るために、参加した高校生を対象にハンドボールフェスタを評価するアンケート調査を行い、ハンドボールフェスタの全体像を把握するとともに、参加した高校生の満足感を構成している要因、満足感に貢献する要因を明らかにすることを目的とする。また、満足感の調査結果を男女別、競技成績別などで比較し、それぞれの属性での満足感の違いを明らかにする。

## 【方法】

対象者は平成 23 年度のハンドボールフェスタに参加した高校生男子 314 名、女子 167 名、合計 481 名であった。

アンケート調査表の作成にあたっては、ハンドボールフェスタの満足感を構成していると考えられる 8 つの評価観点を仮因子として設定した。仮因子ごとに 3~7 つの質問を作成し合計 49 個の質問を作成した。さらに総合的なフェスタの評価として 2 つの質問項目を加え合計 51 項目からなる調査票を作成した。質問項目への回答は「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」の 5 件法として、それぞれに 5 点、4 点、3 点、2 点、1 点を与えて得点化した。なお対象者の属性については性別、学年、ポジション、競技歴、競技成績、参加回数などを調査した。

ハンドボールフェスタの満足感はどのような要因から構成されているのか、またどの要因が満足感に最も影響を及ぼすのかを明らかにするために、因子分析および重回帰分析を用いた。また属性間での比較を行うために、独立したサンプルの T 検定および一元配置の分散分析と多重比較を行った。

## 【結果と考察】

本研究から以下の 4 点が明らかになった。

- 1) 今回のハンドボールフェスタに参加した高校生は、ハンドボールフェスタへの参加に満足していた。
- 2) ハンドボールフェスタを構成する 4 つの要因が抽出され、それぞれ、「上達のきっかけ」、「練習プロ

グラム」、「練習に臨む態度」、「意欲・触発」と命名された。

- 3) 抽出された因子のなかで満足感に貢献するものは、「上達のきっかけ」と「練習プログラム」の 2 つであり、これらの要因について高い評価を受けるようなハンドボールフェスタの実施が、充実したハンドボールフェスタを行うために重要である。

表1 総合評価に対する各要因の相関係数、標準回帰係数及び貢献度

要因	相関係数	標準回帰係数	貢献度 (%)
上達のきっかけ	0.34 *	0.30 *	10.2
練習に取り組む態度	0.03	0.02	0.1
練習プログラム	0.47 *	0.42 *	20.0
意欲・触発	0.14	0.08	1.2

1. \* P < 0.01

2. 貢献度 (%) は相関係数×標準回帰係数×100で算出した

- 4) 属性別に満足感を比較したところ、性別間では女子が男子よりもすべての因子で高い傾向を示した。学年間では、2 年生が 1 年生よりも「練習に臨む態度」において高い満足感を示した。ポジション間では、キーパーが他よりも「上達のきっかけ」で高い傾向を示した。競技歴間では、競技歴 1 年未満の対象者が、「上達のきっかけ」において他よりも高い傾向を示した。競技成績別では、「上達のきっかけ」で他よりも高い傾向を示した。参加回数間では、1~2 回のトレーニングセッションに参加した対象者が、「上達のきっかけ」と「練習プログラム」で、高い傾向を示した。

## 【今後の課題】

ハンドボールフェスタ改善のための方向をしっかりと見定めるには、ハンドボールフェスタの当初の目的である、高校生の技術力向上、ハンドボールの普及、高校生間の交流、大学生の指導力向上がどの程度達成できていたかの理解を深め、目標達成度と満足感の両面からハンドボールフェスタを評価する観点が必要となる。またハンドボールフェスタの目的を達成するためには、参加者である高校生の目的の達成度と満足感に加え、指導する大学生は指導力が向上できたかを測る新たな尺度と、参加者の属性に合わせた、指導する大学生の指導や助言の適時性の検討などが必要である。